

第五章 資料

第一節 棟札・墨書等

一 北倉二階四天柱墨書（元祿六年）

元祿六癸酉八月七日□

〔図版写真248〕

二 北倉扉板刻字（明治十七年）

此板一枚

明治十七年六月修補之

〔図版写真249〕

三 正倉棟札（大正二年）

奉勅修理 宮内大臣伯爵渡邊千秋

宝庫主管 帝室博物館総長股野 琢

工事主管 内匠頭工学博士片山東熊

内匠寮 技師 木子幸三郎

大正二年十二月

帝室博物館総長股野 琢

〔図版写真250〕

四 杉本神社小屋裏発見墨書（天保七年）

木片（五五mm×五三mm×八〇mm、檜）に墨書。

〔図版写真265〕

天保七 申年 丙

二月十五日

内侍原丁

大工 善助

受負人

南都内侍原丁

松屋善助

銀高三十六貫八百五十目

〔金鑄〕
□□社

老貫七百目

五 杉本神社棟札（大正四年）

大正四年修理本殿及鳥居瑞垣歳之五月十八日起工七月六日落成

其制一仍旧貫無所変改費額総式百五拾八円也

大正四年七月八日記之

奈良帝室博物館長 久保田 鼎

事務主任 帝室博物館属 城山庄治郎

工事主任 帝室博物館技手 寺井米佑

〔図版写真266〕

六 杉本神社供物台裏面墨書（天保七年）

正倉院鎮守

藏王権現社

天保七年六月就御倉御修理

当社造替仍同月三日奉遷

宮

神主從四位下行出羽守紀朝臣延寅奉仕
卅八歳

〔図版写真267〕

第二節 篋書・刻印等

- 一 西南二の鳥衾瓦篋書（慶長八年）〔図版写真252・本文五―三―一六①〕
慶長八年^{癸卯}三月廿五日于時瓦大工和州添上郡之内
法華寺村助六同子藤松作之
十市郡矢キノ内木原村住□弥六也
添下郡西京三条村助次郎土打也
- 二 西南一の鳥衾瓦篋書（慶長八年）〔図版写真253・本文五―三―一六②〕
慶長八年^{癸卯}三月廿五日于時「」
「」作也
同塔土院村「」也
- 三 鳥衾瓦篋書1（慶長八年）〔『正倉院宝庫屋根瓦拓本』卅八〕
慶長八年^{癸卯}三月廿五日于時瓦大工和州添上郡之内
法華寺村助六同子藤松瓦作之
十市郡矢キノ内木「」弥仕□形
添下郡西京三条村助「」打也
- 四 鳥衾瓦篋書2（慶長八年）〔『正倉院宝庫屋根瓦拓本』卅七〕
慶長八年^{癸卯}三月廿五日于時瓦大工和州添上
郡之内法花寺村源三郎作之畢
同添下郡西京七条村弥四郎仕□形
同塔土院村久次土打也
- 五 東南一の鬼瓦篋書（慶長八年）〔図版写真254・本文五―三―一六③〕
（左側面）
慶長八年三月十一日 □介^{西村}
- 六 西南二の鬼瓦篋書（慶長八年）〔『正倉院宝庫屋根瓦拓本』四十、図版写真255〕
（左側面）
慶長八年^{癸卯}三月廿五日
（右側面）
于時瓦大工幡州志きたうの郡中村郷藤原朝臣久兵衛作之
（正面顎下）
東大寺
- 七 瓦刻印（元禄六年）〔『正倉院宝庫屋根瓦拓本』卅一、図版写真256〕
元禄六^{癸酉}西年六月 南都瓦師次郎兵衛
◎軒平瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦・西北隅丸瓦にあり、おもに裏面に刻印される。年号と瓦師名がそれぞれ別の判として作られる。
- 八 瓦刻印（天保六年・楷書）〔『正倉院宝庫屋根瓦拓本』卅二、図版写真257〕
天保六^{乙未}年 瓦師三郎兵衛
◎軒平瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦にあり、瓦の表面・裏面どちらかに刻印される。年号と瓦師名がそれぞれ別の判として作られる。
- 九 瓦刻印（天保六年・篆書）〔『正倉院宝庫屋根瓦拓本』卅三・四十一、図版写真258〕
天保六年乙 瓦工平城住人
未九月日造 三島三郎兵衛富明
- ◎三と四は拓本のみで瓦そのものは現存していない。大正二年の修理で取り替えられた鳥衾瓦は二本なので、この篋書はその二本のものと考えられる。

◎年紀部分が篆書になり、上下が別の判として作られる。軒平瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦・鳥衾瓦にあり、瓦の表面・裏面どちらかに刻印される。

一〇 瓦刻印（明治二十二年）〔『正倉院宝庫屋根瓦拓本』卅四、図版写真259〕
明治式拾式年修補

瓦工奈良住人
早川義平造

◎年紀部分が篆書になり、各行で別の判として作られ、軒平瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦・東北一及び東南一鳥衾瓦にあり、おもに瓦裏面に刻印される。

一一 瓦刻印（明治三十二年）〔図版写真260〕

明治参拾式年造之

一二 瓦刻印（明治四十二年）〔『正倉院宝庫屋根瓦拓本』卅五〕

正倉院御用

明治四十二年三月造

瓦工鈴木又市

一三 瓦刻印（大正二年）〔『正倉院宝庫屋根瓦拓本』四十六、図版写真261〕

正倉院

大正式年補

京都瓦師 西村彦右衛門

◎大棟鳥衾瓦南側ほか軒平瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦・鳥衾瓦・雁振瓦など大正二年補足瓦すべてに刻印される。

一四 瓦刻印（大正十年）〔図版写真262右〕

正倉院

大正十年補

京都瓦師 西村彦右衛門

◎年号と瓦師名が別の判として作られる。軒平瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦にあり、瓦裏面に刻印される。

一五 鳥衾瓦籠書及び刻印（大正十年）〔図版写真262左〕

正倉院

大正十年補

大棟

宝庫

京都瓦師 西村彦右衛門

◎年号と瓦師名が別の判として作られ、ほかは籠書される。大棟北側の鳥衾瓦裏面にある。

一六 西北一の鳥衾瓦籠書〔『正倉院宝庫屋根瓦拓本』四十二、図版写真263〕

西京尻江田之住

「」年卯月吉日

新右衛門家次

一七 西北一及び二の鬼瓦籠書〔『正倉院宝庫屋根瓦拓本』四十三、図版写真264〕

ニシノキヤウ

宗左衛門

第三節 瓦拓本 第一項 軒丸瓦瓦当

①鎌倉



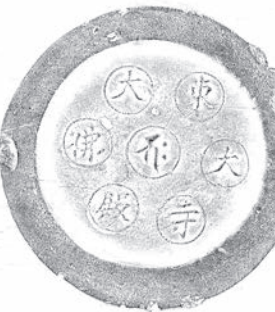
②室町A



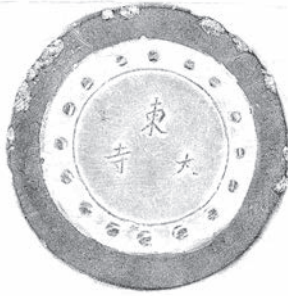
③室町B



④室町C



⑤慶長



⑥元禄六年



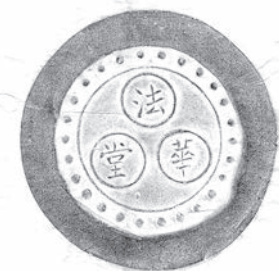
⑦天保六年



⑧江戸後期A



⑨江戸後期B



⑩江戸後期C



⑪江戸後期D



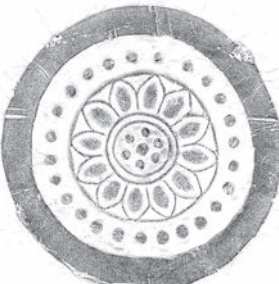
⑫江戸後期E



⑬江戸後期F

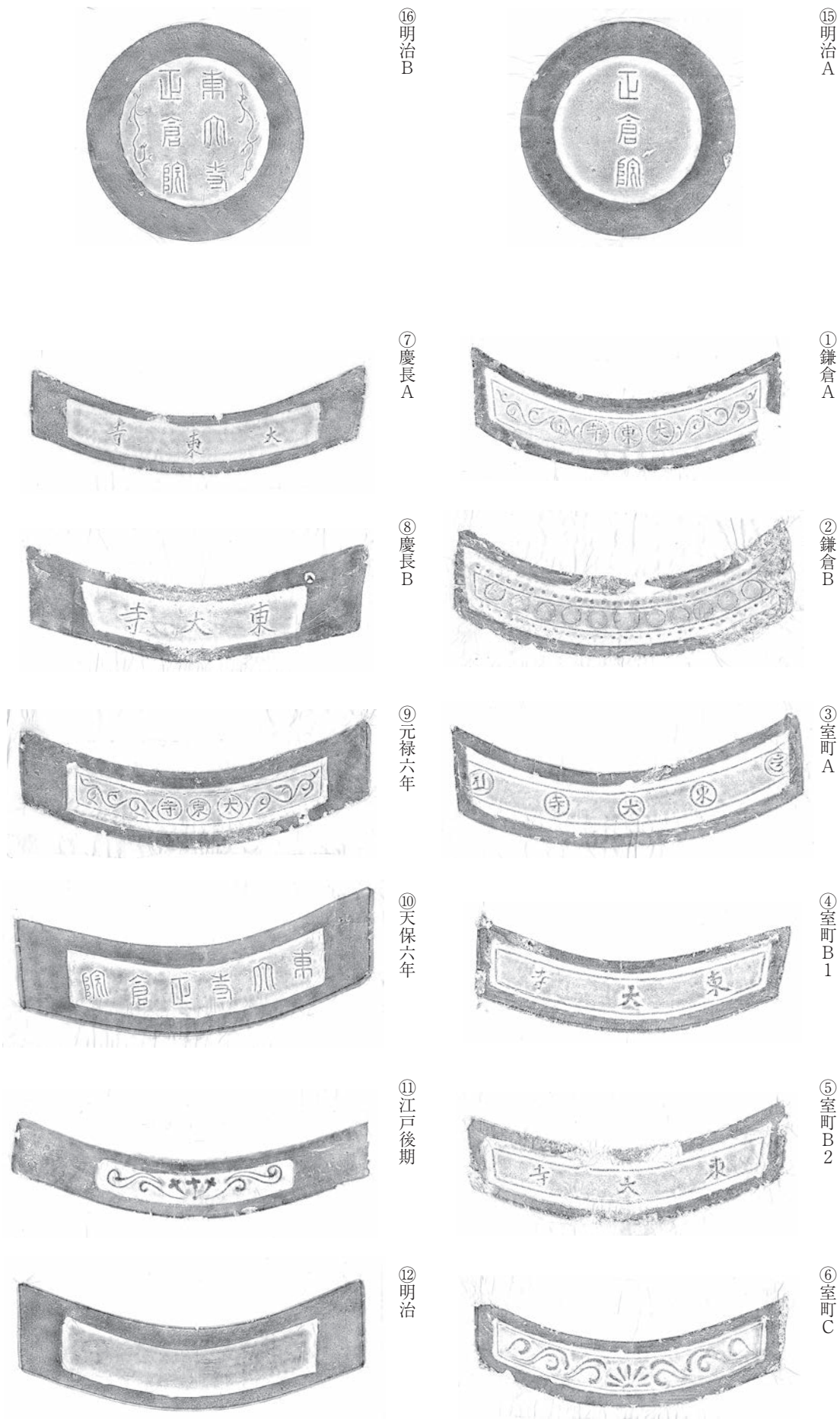


⑭江戸後期G



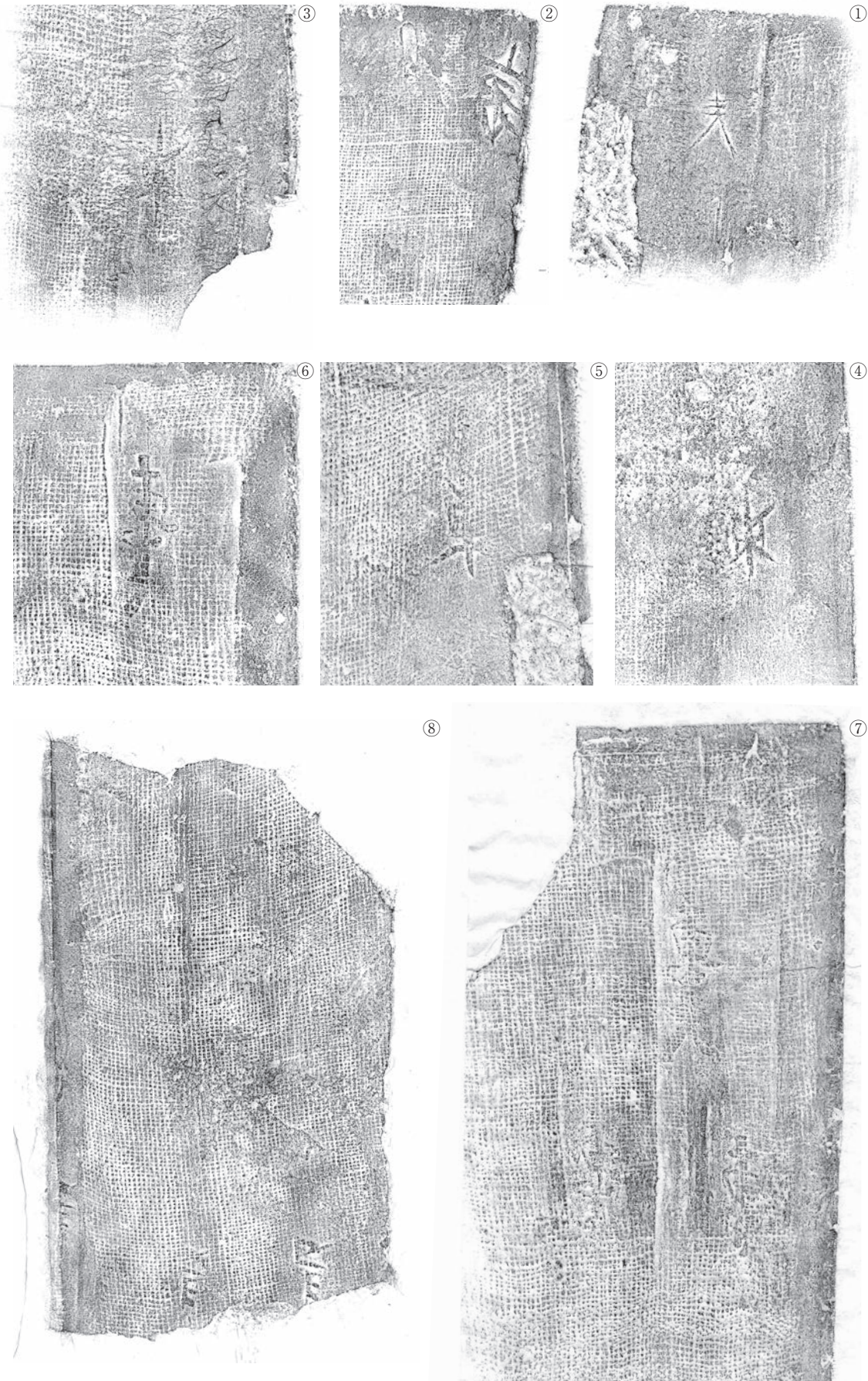
縮尺一・五

第二項 軒平瓦瓦当



縮尺一・五

第三項 奈良時代一枚作り平瓦刻印



①「春」②「家」③～⑤「東」⑥⑦「東大」⑧不明

第四項 奈良時代平瓦表面加工痕

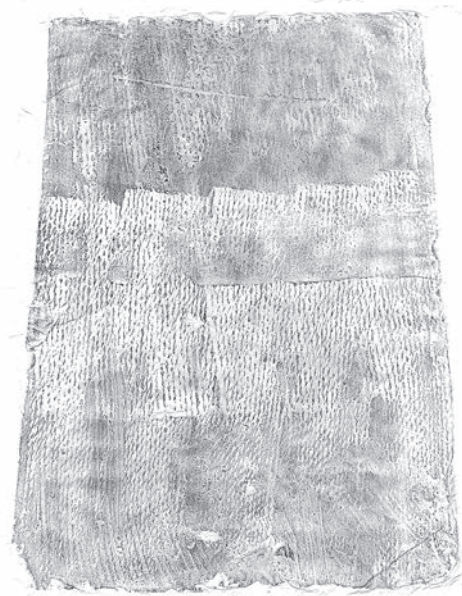
一枚作り凸面ナデなし



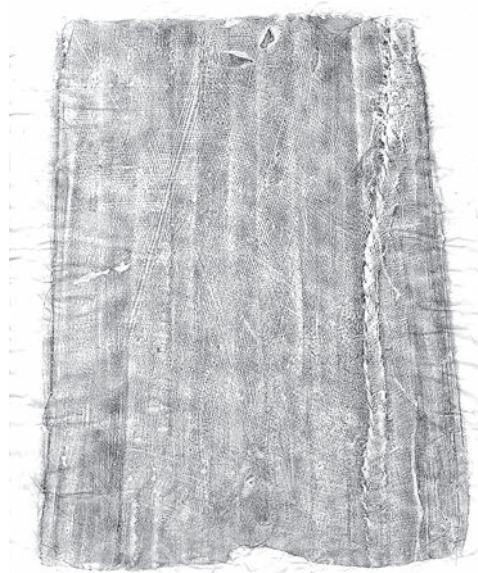
桶巻き作り布綴じ目①



桶巻き作り凸面ナデ①



桶巻き作り布綴じ目②



桶巻き作り凸面ナデ②



桶巻き作り布綴じ目③



縮尺一・六

第五項 鎌倉時代平瓦叩き文



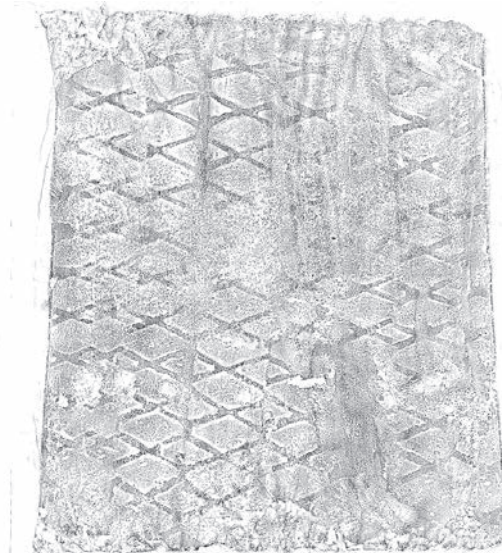
②



①



④



③



⑦



⑤



⑥

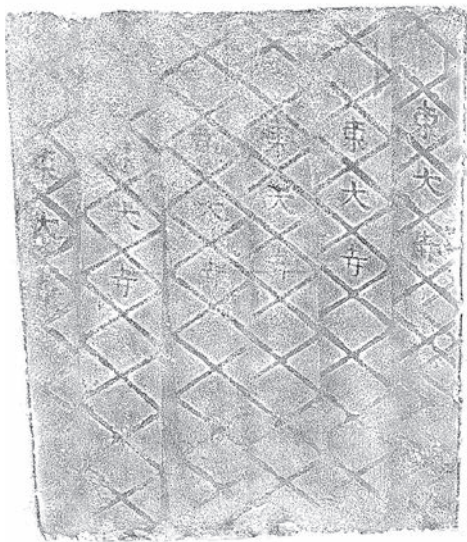
縮尺一：六



⑨



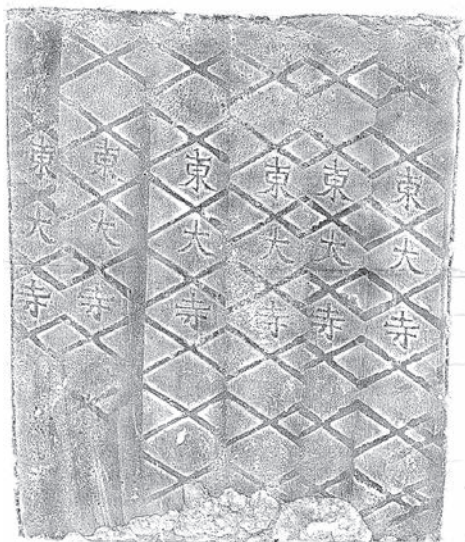
⑧



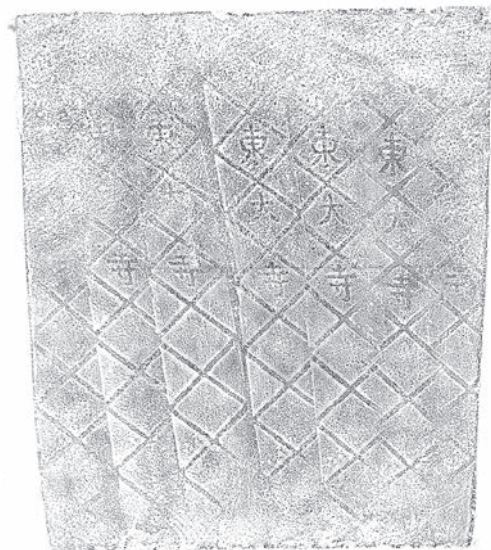
⑪「東大寺」



⑩「東大寺」



⑬「東大寺」

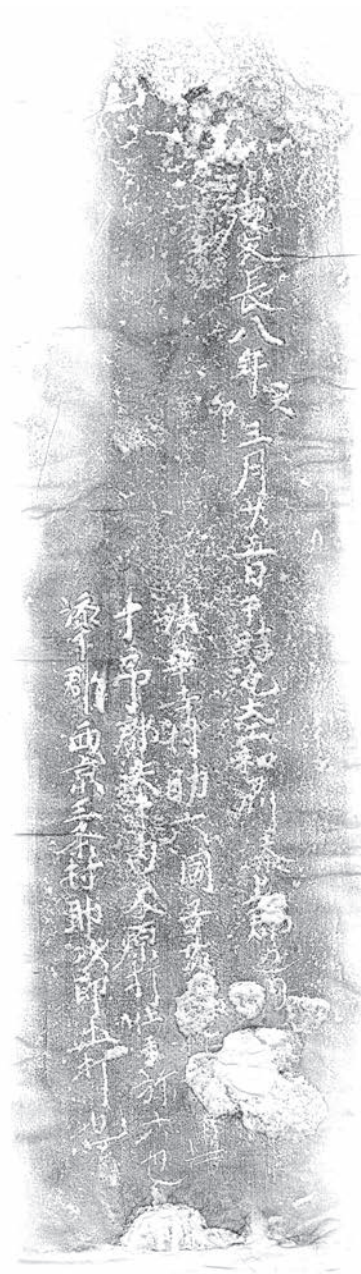


⑫「東大寺」

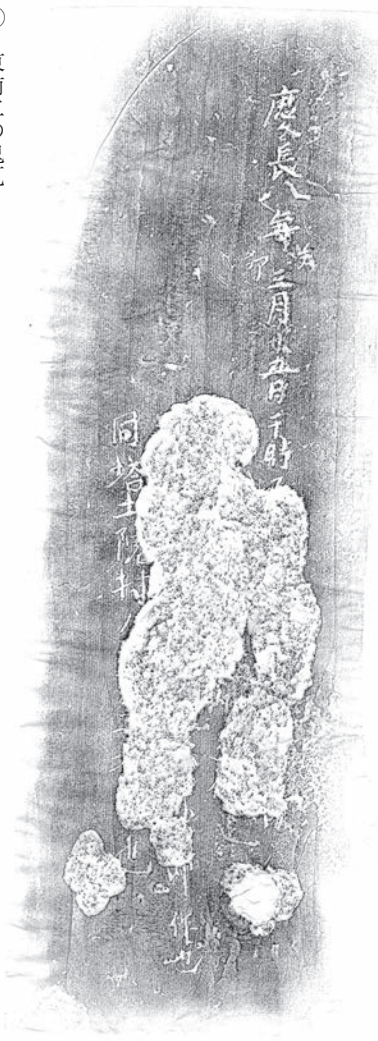
⑩～⑬「東大寺」文字入り

第六項 篋書

① 西南二の鳥衾瓦



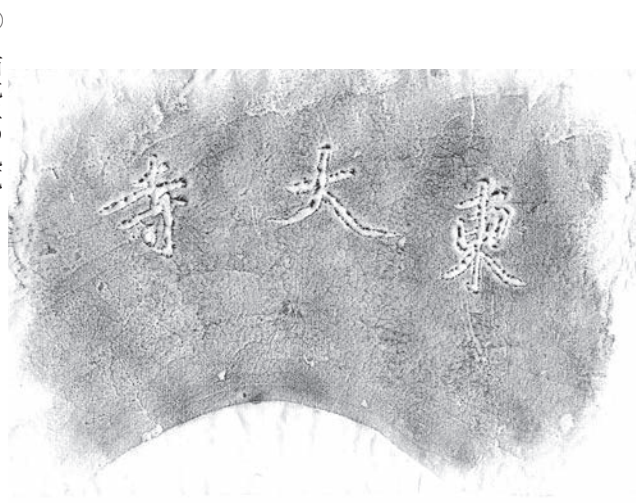
② 西南一の鳥衾瓦



③ 東南二の鬼瓦



④ 西南二の鬼瓦



⑤ 西北二の鬼瓦

